

## 第7回 能登半島地震における土砂災害対策検討委員会

### 議事要旨

1. 日時 令和7年5月23日(金) 10:00～12:15
2. 場所 金沢河川国道事務所 2階会議室(Web 併用)
3. 出席者

#### 【委員長】

丸井 英明 (新潟大学 名誉教授)

#### 【学識委員】

川村 國夫 (金沢工業大学 地域防災環境科学研究所 教授)

柳井 清治 (石川県立大学 生物資源環境学部 特任教授)

鈴木 啓介 (国土技術政策総合研究所 土砂災害研究部砂防研究 室長)

(Web 参加)

内田 太郎 (筑波大学 生命環境系 教授)

堤 大三 (信州大学 学術研究院農学系 教授)

#### 【行政委員】

能勢 努 (気象庁 金沢地方气象台 次長)

(代理)辻 隆宏 (国土交通省 北陸地方整備局 能登復興事務所 副所長)

(代理)橋本 浩一 (石川県 土木部 砂防課 課長)

(Web 参加)

木村 勲 (国土交通省 北陸地方整備局 河川部 部長)

(代理)前川 康弘 (輪島市 総務部 総合防災対策課 課長)

田川 克彦 (輪島市 建設部 技監)

(ご欠席)

針木 江津子 (石川県 危機管理部 次長)

#### 【北陸地方整備局】

河川部 総合土砂管理官 山路 広明

河川計画課 課長 板倉 舞 (Web 参加)

建設専門官 梅田 ハルミ

河川工事課 課長補佐 川合 康之

#### 4. 議事概要

- ・ 令和6年1月1日に発生した能登半島地震により河道閉塞箇所が生じた、牛尾川、寺地川、市ノ瀬地区(紅葉川)および、9月20日からの大雨により被災した塚田川における現在の工事進捗状況と今後の対策方針について報告した。なお、工事の進捗状況はUAVを用いた空撮映像を交えて説明し、施設配置位置および現場状況についても報告した。さらに、今後の出水期を迎えるにあたっての警戒避難の考え方や監視・観測体制の整備状況について、報告した。討議内容は以下の通りである。

#### 【第6回委員会の指摘と対応状況】

- ・ 特になし

#### 【応急対策の整備状況報告】

- ・ 流木が立木に引っ掛かり捕捉されている事例もみられることから、流木対策としてワイヤーネット以外の対策(例えば、鋼管杭を用いて簡易的に流木を捕捉するような対策)も検討してみてはいかがか。
- ・ 出水期までに応急対策を完成させることを念頭に対策の工法等を検討する必要があると考える。
- ・ 応急対策としてワイヤーネットを設置することで、土砂や流木を捕捉することは妥当であるとする。一方で、捕捉された土砂や流木がワイヤーネットの倒壊等により、一度に流出すると下流へ大きな影響を与えることも想定されるが、ワイヤーネットで捕捉された流木等の取り扱いやブロック堰堤が完成した際の取り扱いはどのように考えているのか。
- ・ 応急対策としてのワイヤーネットについては、捕捉した流木等を適宜除去して機能を確保することが必要であるとする。また、対策工の維持管理方法についてはそれぞれの流域の状況等に応じて検討をする必要があるとする。
- ・ ブロック堰堤を設置する目的は、上流域に堆積している不安定土砂が中小出水で流出した際にブロック堰堤で捕捉することで、下流河道への負荷を軽減する効果を期待することが主目的であるとする。そのため、土砂捕捉後は捕捉容量を確保するために掘削等を行うことが望ましい。しかし、扞止効果が期待できるような場所に設置されているブロック堰堤に関しては、状況に応じて掘削しない場合も含めて掘削方法等を検討する必要がある。
- ・ 応急対策としてのブロック堰堤は、容量確保し豪雨時に流下する土砂を捕捉することが基本的な考え方であるとする。
- ・ 恒久対策の整備進捗によって、応急対策の役割が変わってくると考えるため、状況によっては応急対策の施設を取り除くなどの対応もあっても良いとする。一律に決めず時点毎の役割の変化も踏まえて対応してはどうか。

#### 【警戒避難の考え方について】

- ・ 河道閉塞が消失した牛尾川、寺地川の警戒避難基準について、洪水警報から、土砂災害警戒情報が発表された場合へ変更することは良いとする。
- ・ 土砂災害警戒情報発令基準を7割まで引き下げて運用されているが、引き下げ率が7割で妥当かどうかについては、検討が必要であるとする。たとえば、引き下げ率をもう少し厳し

くしてはいかがか。

- ・ 警戒避難の考え方については継続的な検討課題としていく。
- ・ 警戒範囲について、鈴屋川や塚田川においても上流に不安定土砂や流木が堆積していることを踏まえると、浸水想定範囲よりも影響範囲が大きくなることが想定される。そのため、防災計画を検討する上では、不安定土砂や流木の影響を考慮して影響範囲等を検討していただきたい。
- ・ 出水期までに各関係機関で、各流域の現地状況に合わせて警戒避難体制について意見調整・情報共有を図ることが重要であると考える。

#### 【監視・観測体制の整備状況の報告】

- ・ 市ノ瀬地区の監視・観測体制については、多くの機器が設置されているため、良いと思う。一方で、牛尾川と寺地川については、昨年 9 月の出水時にカメラが流失しているため、カメラ設置の高さや配線等に留意していただきたい。
- ・ 豪雨時には溪岸侵食や斜面崩壊が発生することが想定されるため、それらを観測できるようにカメラを設置していただきたい。また、必要に応じて、カメラの増設についても検討していただきたい。
- ・ 濁度計を土砂移動現象の前兆を検知するために設置しているのであれば、濁度計のデータについても、HP で閲覧できるようにしてはいかがか。

－以上－